のびっ子

第　２　号
竜王東小学校
R元.6.13発行
文責　渡辺

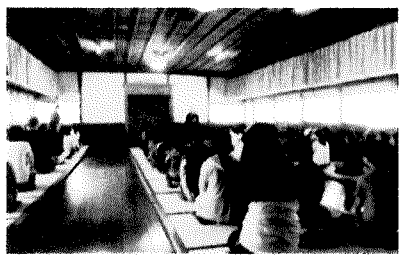
様々な行事に取り組みました

平成から令和に年号が変わり、早くも一か月半が経ちました。その間に数多くの行事が行われました。十連休後、子どもたちは皆元気に登校し、取組に積極的に参加してきました。ここで振り返ってみたいと思います。

修学旅行

五月十五日（水）から十七日（金）まで、二泊三日で修学旅行に六年生が行ってきました。三日間天候に恵まれ、心地よく見学ができました。一日目は、鎌倉大仏の見学、円覚寺での座禅体験、鎌倉班別行動を行いました。二日目は、国会、東京タワー、第五福竜丸、国立科学博物館での見学で学習を積みました。三日目は、東京ディズニーランドでの班別行動で楽しみました。この三日間を通して、六年生の良い部分が存分に発揮されたと思います。まず第一に、集合時刻などを守ろうとする意識が高かったことです。しかし、見学時間を有意義に使おうとする姿が見られました。つまり、時間の使い方が上手でした。二つ目は、学習に向かう姿に真剣さが見られたことです。行く先々で、メモをとる姿が見られ、外国の方々に話しかける姿、話に傾聴する姿も見て取れました。

この三日間を通して、一緒に生活を共にすることを通して、六年生はまた一回り成長したことと思います。これからも、児童会活動、運動会等々中心になって活躍する姿が目に浮かびます。


円覚寺での座禅体験

第五福竜丸　真剣な眼差し

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成
・よく考え、進んで学ぶ子ども
・きまりを守り、思いやりのある、心豊かな子ども
・じょうぶでたくましく、最後までやりぬく子ども

林間学校

五年生は、五月二十三日（木）と二十四日（金）に、八ヶ岳少年自然の家を中心とした、林間学校に行ってきました。こちらも天候に恵まれる中、五年生にとって小学校で初めての宿泊を伴う行事が行われました。一日目は、野外炊飯、冒険ハイク、キャンプファイアを行い、二日目は、美し森絵図ハイクを行いました。

普段生活しているところとは違い、自然の中で自分たちで食事を作ったり、班員と力を合わせ課題をこなしたり、充実した活動となりました。

わたしも、一日目の夕飯時に短時間でしたがお邪魔して様子を見させてもらいました。どの子の茶碗やお皿を見ても、きれいに平らげられていて、片付けもしっかりできていました。そこに林間学校の子どもたちの姿があったように感じます。

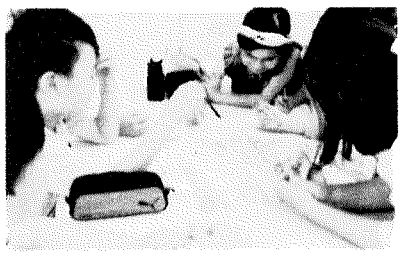
林間学校　自然はたのし

林間学校　カレーはうまし

防犯教室

五月の二十九日(水)に一年生から四年生までが、三十日（木）に五年生と六年生が防犯教室で学びました。例年全校で行ってきましたが、今年度は子どもの発達段階を考慮して、日と内容を変えて行いました。

一年生から四年生までは、不審者はどんな人か、遭遇したらどのような行動をとったらいいかを県民生活部の内藤先生から教わりました。五・六年生は、町に潜む危険をＡＬＳＯＫの方から教わりました。いざという時のために、学習したことを忘れずにいてほしいです。


防犯教室　どこが危険かな？

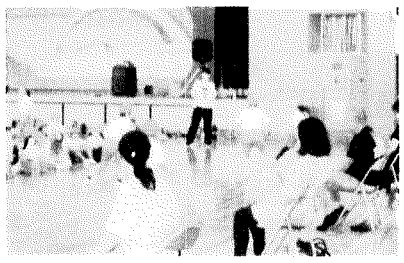
引き渡し訓練

五月二十九日（水）に、避難訓練及び引き渡し訓練を行いました。南海トラフの地震情報が発せられたことを想定してのものでした。引き渡しは、地震以外の時にも可能性はあります。集団下校での対処ということもありますので、御理解お願いします。保護者はじめ皆様の御協力ありがとうございました。

体力テスト

五月の二十七日(月)と二十八日（火）に、体力テストを行いました。多くの保護者の皆様にボランティアとしてお手伝いいただきました。誠にありがとうございました。おかげさまで、滞りなく体力テストを終えることができました。

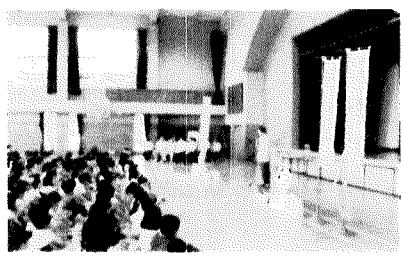
昨年度実施した体力テストの本校における体力的な課題として、持久力の不足があげられました。今年度は、全校でこの課題に取り組んでいくことが確認されました。


体力テスト御協力ありがとうございました

人権の花贈呈式

六月十二日（水）、「人権の花贈呈式」が、甲府地方法務局人権擁護課主任　関谷隆仁様はじめ四名の来賓を迎え、行われました。人権擁護委員から児童代表に花やプランター、土、看板等が贈呈されました。

このことを契機に、また、育っていく花を見るたびに、人権とは何か、人権を守ることとは何かを考えてほしいと思いました。予定されていたバルーンリリースは十七日（月）に行います。


みんなで築こう人権の世紀

人権の花が贈呈されました

安全について考える

連休明け以降、私たちの生活の安全・安心を脅かす事件、事故が相次いで起こった。メディアでは、連日それらの報道に時間を割いている。これらの事件、事故に対し共通して言えることは、他の脅威によって何の落ち度もない人が犠牲となってしまったことである。また、弱者である子どもたちが巻き込まれることが数多く起こっていることである。

学校にとって、子どもたちの安全を第一義に考えなければならないのは当然である。しかし、今学校の力だけでは対処しきれない状況なのも否めない。竜王東小では、これまでも保護者の方々、ボランティアの方々の協力により、登下校の安全を守ってくることができた。しかし、学校管理下以外私的な場面での安全確保となると、幅広く地域の方々と諸機関と連携をしなければならない。地域の方々多くの方に子どもたちの安全を呼びかけることが必要になってくる。学校だけではだめで、行政や警察等の諸機関が啓発に努めなければいけないと考えている。

小学生の頃、近所のおじさん、おばさんの顔は大体知っていた。挨拶を交わしたり、いたずらを怒られたり、地域の中で育てられた気がした。安全の基本はそこにある。